

令和7年度 第2回平塚市地域公共交通活性化協議会

1 日時

令和8年1月28日(水)15時00分から16時20分まで

2 場所

平塚市役所302会議室

3 出席者

(1) 委員15人

津田委員、関委員、佐藤委員、山田委員、渡辺委員、渋谷委員、志賀委員、
長谷川委員、松下委員、野島委員、鈴木委員、小林委員、梶田委員、
加納委員(代理 森田氏)、廣野委員

(2) 事務局

まちづくり政策部 小澤部長、
交通政策課 生沼課長、海老澤課長代理ほか担当2名

(3) その他

岡崎地区自治会連絡協議会 会長(随行:2名)

4 会議の成立

平塚市地域公共交通活性化協議会規約第6条第2項に基づき、委員の過半数の出席により成立

5 傍聴者

0人

6 議題

(1) 平塚市地域公共交通網形成計画に基づく施策の取組状況について

7 報告事項

(1) 平塚市コミュニティバスbetWEen liner(ビトウィーンライナー)運行開始について
(2) 岡崎地区における交通課題に関する協議状況について

8 課題研究

平塚市総合交通計画等の改訂に向けた検討について

9 議事録

次ページ以降に記載のとおり

○議事録

	会議冒頭で平塚市地域公共交通活性化協議会委員の委嘱式(交代があった方のみ)を実施
会長	<p>会長を務めております、東海大学の梶田です。それでは議題に入りたいと思います。本日は、議事が1つ、報告が2つ、課題研究が1つということになっておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>まずは順に沿って進めて参りたいと思います。まずは議題1、平塚市地域公共交通網形成計画に基づく施策の取り組み状況について、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、御説明させていただきます。</p> <p>資料1は、平塚市地域公共交通網形成計画は53ページに掲載のもので、施策体系や施策メニューが載っております。資料1-1は、この施策に対して今年度どう取り組んでいるか、現在の取組状況をご説明したいと思います。 (資料1～資料5、資料9、資料10について事務局から説明)</p>
会長	<p>まずは、平塚駅へのホームドアについて、JRさんに伺えればと思います。</p>
委員	<p>ホームドアにつきましては、整備を進めていく計画ですので、よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>自動運転バスについて、神奈川中央交通のご見解を伺えればと思います。</p>
委員	<p>今年度は、いすゞ自動車株式会社製の大型電気バス「エルガEV 自動運転バス」を、全国で初めて活用いたしました。これまでのディーゼル車と比べ、自動運転との相性が良いと感じており、特に加減速等に関しては凄くスムーズな動きをしていると感じます。</p>

	<p>また、今年度は緑ナンバーを取得し、有償運行ということで、運賃を収受いたしました。これは、自動運転の社会実装に向けて、過渡期には保安員等が乗車するとして、最終的には無人による運行を見据えて、完全キャッシュレス運行を実施しています。なお、平塚駅南口エリアのバス路線においては、1月末までキャッシュレス運行の実証実験を実施しています。</p>
会長	<p>いわゆるブレーキは違うのですか。</p>
委員	<p>電子制御になったこともあり、特に発進時がスムーズだと感じます。</p>
委員	<p>自動運転バスの今後の計画について伺います。国道134号の交通量など、課題がある場所もあると思いますが、現在実証実験を行っている平15系統(駅南口すみれ平循環)の反対回り(平16系統)など、段階的に運行路線を拡大することや、次世代型の車両を運行するだけでなく、ひらつかシーテラスとの連携など、平塚市のPRにつなげていくことも必要と思います。平塚市総合交通計画の改定に合わせて検討する話かもしれませんが、どのようにお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>本市では、平塚駅南側エリアの既存バス路線全体の自動運転バス化を計画しており、現在実証実験を行っている平15系統の反対回りについても視野に入っています。</p> <p>しかしながら、エリア内のバス路線をどの順番で自動運転化していくかは、平15系統で自動運転レベル4認可取得をしたのちに、神奈川中央交通さんと協議していくものと考えております。</p> <p>また、委員ご指摘のとおり、自動運転バスを運行するだけでなく、周辺の産業等と連携していくことで、新たな需要の創出につながっていくものと考えます。現状では、自動運転バスの導入は高価であることから、これまでとは異なる取組みが重要になると考えています。</p>

会長	南北都市軸の連節バス導入については、需要が見込めない状況ですか。
委員	これまでの会議でもお伝えしている通り、当初伺っていた需要の3分の1から半分程度です。
委員	<p>南北都市軸に関連して、平塚駅北口～本厚木駅南口線の運転本数は多くて便利なのですが、土休日等の夕方を中心に渋滞がひどく、田村地区の自治会から改善について要望してほしいと受けております。</p> <p>特に国道1号線から北側、具体的には宮の前交差点から市役所北交差点までの渋滞が著しい状況で、ひどい時は1時間30分もバスが遅れるということがありました。簡単に対策は出来ないのかもしれませんが、信号機の微調整等、対策が講じられないか、お伺いします。</p>
委員	<p>渋滞に伴うバスの遅延は、おっしゃる通りの状況です。土休日の場合、特に渋滞が著しい場合は、平塚駅北口発の路線バスが、宮の前交差点をなかなか通過できない状態が発生しております。</p> <p>ららぽーと湘南平塚側で、迂回を呼び掛ける立て看板をしており、一時的な交通集中という面もあるかもしれませんが、弊社としてもバス協会を通じて走行環境の改善を要望しております。引き続き要望活動を継続するとともに、平塚市や平塚警察署とも相談したいと思っております。</p>
委員	バスの場合は柔軟な経路変更が出来ないので、これだけの渋滞ですと、バスを待っている人も、バスに乗車している人も不満があると思います。検討をお願いできればと思います。
会長	待合環境については、今年度は適地がなかなか見当たらなかったということでしょうか。

事務局	<p>昨年度は、バス待ちスポットを、吉沢公民館、城島公民館、さらに保健センターに開設いたしました。まずは公共施設での状況を見ながら、今後は病院等公共的な施設に広げ、その先に民間施設への拡大できればと考えていますが、時間を要するところです。</p>
会長	<p>土沢地区の旧・神奈川大学バス路線について、協議状況等いかがでしょうか。</p>
委員	<p>神奈川大学跡地の利活用が白紙になった後に地元協議を行っていませんが、4半期に1回程度、平塚市と地元との協議に弊社も同席し、利用状況を説明しながら進めております。</p> <p>少し厳しいお話をしていく必要があると考えており、秦38系統(神奈川大学～遠藤原経由～秦野駅)については、既に土休日の運行を休止しておりますが、今後は、平塚駅方面を含めて地元とお話をさせていただければと思います。</p>
会長	<p>小児IC運賃50円について、利用状況等いかがでしょうか。</p>
委員	<p>小児運賃の50円については、以前は土休日に現金で実施しておりましたが、交通系ICカードでの実施に変えてからは、通年で実施しており、好評をいただいております。</p> <p>近年では、小田急電鉄でも小児IC運賃50円を実施しており、新宿駅方面へはバスと電車が50円ずつとなることから、エリア的に変化が生じている状況です。</p>
会長	<p>若い人にも利用が定着していただければと思います。</p> <p>続きまして、報告事項(1)平塚市コミュニティバスbetWEen liner(ビトウィーンライナー)運行開始について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>これまで大神地区から市民病院方面へ運行していたシャトルバスにつきまし</p>

て、令和7年12月1日から新たに平塚市コミュニティバス betWEen liner (ビトウィーンライナー)として運行を開始しました。

再編にあたり、これまでの運行状況や実勢を鑑みて、大神地区から田村車庫までの区間を廃止し、一方で旭地区の方に延伸いたしました。このルートで、1台のバスを用いて、1日1人の運転士さんが乗務しています。

運行ルートについては、資料8のとおり6路線があります。平塚市立地適正化計画に掲げられている、拠点をつなぐようなイメージです。

これまで、市内東西間の移動に不便を来たすところがありますが、それをうまく補う形で、駅を経由することなく、公共施設を東西につなぎ公共施設をつなぐ便として再編したところでございます。

愛称のbetWEen liner(ビトウィーンライナー)につきましては、先ほどご案内した拠点ということイメージしたほか、東西のところを意識しまして、ウエストとイーストを連想させる、WとEの色が変わっております。

これは、市民の皆様親しみを持っていただきたく、私たちのバス(WE)という意味合いでも強調したお持ちとなっているデザインです。

また、従来のシャトルバスにつきましては降りる場所が限定されておりましたが、今回このコミュニティバスは、全てのバス停で乗降可能になっています。

さらに、運賃は路線バス同様に距離に応じたものとして、これまで現金のみしか利用できませんでしたが、交通系ICカード、それからから神奈川中央交通の各種割引制度が全て利用できます。

(その他、資料8に基づき、運行日や運行ルートを説明)

運行開始から1か月のご利用状況としては、まだ概算でしかまとめておりませんが、これまでの田村地区から市民病院方面については、これまでと同程度のご利用があります。

旭地区から市役所方面については、これからという面がありますので、引き続きPRを行い、利用促進を図りたいと思います。

会長

ご説明有難うございます。新たに運行を開始したエリアの利用周知について

	<p>は、どのようにお考えですか。</p>
事務局	<p>既に、チラシの配架やポスターの掲示等は一通り行っていますが、これに加えて、コミュニティバスの利用について、住民の方に寄り添ってご説明していくことが大事だと思います。</p> <p>イベント等でチラシ等のご案内を配りながら、お1人ずつ声をかけてPRしていくため、旭地区につきましては、特別なリーフレットを作成しました。コミュニティバスの運行時間に合わせて、どのような1日が過ごせるのか、案内を行ってまいります。</p>
会長	<p>ぜひ、東西方向の移動に関する困難さが解消できればと思います。それでは、続きまして報告事項(2)岡崎地区における交通課題に関する協議状況について、事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本市では令和3年度から令和5年度にかけて、市内の全自治会に対し、「公共交通利用促進と地域内交通の整備に関する手引き」について説明を行い、コミュニティ交通等の導入に向けた、市との協議手順について紹介しております。</p> <p>このうち、岡崎地区においては交通課題を解決するために市を交えて協議を行う検討組織が設立され、これまで市と地元との間で24回の検討及び協議を重ね、その方向性が固まりましたので、ご報告いたします。</p> <p>(資料6、資料7に基づき事務局から説明)</p> <p>今後につきましては、現在岡崎地区の地元の皆様と協議しておりますが、運行組織を立ち上げていただきまして、その後実証実験の実施を行いたいと考えております。</p>
会長	<p>本件について、岡崎地区自治会連絡協議会の連合自治会長にお越しいただいておりますので、現状の地域の取り組みや今後期待すること等、よろしくお願いたします。</p>

岡自連会 長	<p>ご報告の時間をいただき、ありがとうございます。</p> <p>ただいま事務局の方から詳細について説明がありましたが、事業実施の背景として、岡崎地区の高齢化率が35%と高いという話がありましたが、このうち、ふじみ野1丁目・ふじみ野2丁目に限りますと、高齢化率が47%という、特に高い状況となっています。</p> <p>こういう背景がありまして、コミュニティ交通の導入について検討して欲しいという要望のもとに動いているところです。</p> <p>具体的には、岡崎地区には地域の課題の解決に向けて、岡崎地区地域活動推進会議を開催しているのですが、検討部会としてコミュニティ交通企画委員会というのを発足させて、議論してきたということです。</p> <p>地元としても様々な事例を研究し、住民の皆様や各種団体に説明をしながら、議論をまとめてきているところで、これまで2回の住民アンケートを実施させていただきました。</p> <p>1回目は、交通に関する困りごとについての調査、2回目はどのようなニーズがあるかということで、そのターゲットを具体的に定めてきたところです。</p> <p>アンケート結果からは、通院に対するニーズもありましたが、通院先はいろいろな場所があり、なかなかニーズをまとめきれないため、まずは買い物に絞って運行の計画を立てております。</p> <p>運行先については、東海大学近辺にある、ヨークタウン北金目への希望が非常に多かったということもありました。現状では、公共交通機関で岡崎地区から向かうには、路線バスを乗り継いでいく必要があり、高齢者にとって非常に不便をきたしています。もちろん、地域内の商業施設等へのアクセス等についても考えております。</p> <p>様々な関係機関の協力をいただきながら、一定の方向性が出てまいりましたので、令和8年度に実証実験が具体的に進めていけるように、運行事業者や神奈川運輸支局等とも詳細を詰めていきたいと思っております。</p> <p>地域として非常に高い実現意欲がありますので、地域の交通課題を市と住民が協力して解決していく、1つのモデルケースになればと思います。皆様のご協</p>
-----------	---

	力をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございました。実証実験の開始時期は、いつ頃を目指していますか。
事務局	地域で運営協議会を作っていただきまして、それを元に手続きを進めてまいりますので、5月過ぎになると考えています。
会長	住民による運営協議会ということで、地元の熱意が高いと感じられます。ヨークタウン北金目が、岡崎地区から距離が近い大型商業施設になるのですか。
事務局	岡崎地区の中には大型商業施設はありません。ヨークタウン北金目が岡崎地区からは最も近く、若い方は普段から自家用車で向かわれています。
会長	路線バスは、伊勢原駅方面に本数が多い状況ですか。
委員	<p>岡崎地区全体では、様々なルートで伊勢原駅間を結んでいます。</p> <p>しかし、昨今の乗務員不足により、ダイヤ改正で減便をさせていただいております。また、ふじみ野については最寄りのバス停までのアクセスに勾配があり、当初は歩いて向かわれていた方も、高齢化で乗りづらくなっている状況もあると思われまます。</p> <p>路線バスで拾いきれない需要については、地元で担っていただき、お出かける機会が増えることで、路線バス利用との相乗効果に繋がると思っておりますので、すごくありがたい取り組みであると考えます。</p>
会長	<p>ぜひ、交通ネットワークが強くなっていく視点も入れながら進めていただければと思います。</p> <p>続きまして、課題研究として、平塚市総合交通計画等の改訂に向けた検討に</p>

事務局	<p>ついて、委員からご意見がありましたので、事務局からご説明をお願いします。</p> <p>(資料11に基づき、事務局から委員の意見を説明)</p> <p>まず、伊勢原市串橋地区、伊勢原駅と鶴巻温泉駅の間に計画されている、小田急電鉄総合車両所の移転に伴う、いわゆるスマート新駅の設置については、現時点では小田急電鉄側から具体的な計画の発表が行われたものはなく、今後の動きを注視していくものであり、本市総合交通計画の改定において、どのような位置づけができるのか、今後の検討課題としたいと思います。</p> <p>仮にスマート新駅が設置され、周囲のまちづくりが隣接する本市、とりわけ近隣地区である岡崎地区等の生活利便性の向上につながるものであれば、主要な交通軸の1つである伊勢原軸を強化するため、運行事業者と連携して公共交通ネットワーク再編に向けて検討したいと思います。</p> <p>次に駅前広場の再整備については、平塚駅周辺地区将来構想に位置付けられたフラグシッププロジェクトの短期的な取り組みの1つとして、平塚駅南口駅前広場のロータリー部分について、バリアフリー化や自動運転バスの対応に向けた先行整備を検討しております。</p> <p>委員ご指摘のとおり、定量的なデータに基づく設計は重要であると考えており、様々な交通量調査や交通動線を踏まえて、駅前ロータリーの最適な形状を検討し、JR、神奈中、タクシー協会、警察、その他様々な関係者とお話をしながら進めていければと思います。</p>
会長	<p>この件につきまして、ご意見等ありますでしょうか。</p>
委員	<p>市民委員を務めるにあたり勉強させていただいたところですが、伊勢原市の動きは、とても重要なことかと思っています。先ほど岡崎地区の話も出ましたが、次の交通計画を策定する際には、公共交通を路線バスやタクシーでどうするということではなく、地域での運行運営を含め、様々な工夫の中で、シームレスな移動ができることが重要ではないかと思っています。</p>

市域が扇形の平塚市において、鉄道の駅は南部に1つしかなく、奥座敷的な郊外の住民にとって不便がある状況です。

今回、小田急で車両基地を造られるということですが、駅を作るという話はどこにも書かれていませんので、いわゆる請願駅のように、地域から声が挙がらないと、現状のまま新駅を作らなくて良いのではないかと思われる可能性があります。我々も主体的に、あるいは積極的に機運を醸成していくことが重要だと思います。

JR東海道線の村岡新駅の場合は、JRさんもお苦労されていると聞いておりますし、平塚市や、場合によれば隣接市である厚木市や秦野市も含めて意欲を前面に出していかないと、小田急側に新駅の設置を判断していただけないのではと思います。

これは、神奈中のバス路線を新駅ができたら少し延伸すれば良いというレベルの話ではないと思いますので、次の交通計画に向けては、伊勢原市と連携して取り組む必要があると思います。

2番目については、「みんなのリビング」地区説明会のときに伺いまして、色々とお話を伺ったのですが、平塚駅北口、西口、南口の3つの絵は、あくまでもイメージなので、新技術を活かしたスマートステーション時代が、こんな感じなのかというのは、少々残念という思いがあります。

近年は技術的に様々な変化が見られる中で、今のようにタクシーが駅前広場に多く待機している必要があるのか、例えばショットガン方式にするなどの工夫は出来ると思います。

また、路線バスの利用実態としては、平塚駅北口では通勤客や高校生等の降車も多いにもかかわらず、パールロードの方には殆ど人は行かず、駅ビル内の施設へ向かっています。

こうしたことから、これからの駅前広場を含めたまちのにぎわいと、始発駅である交通の利便性アップについてもセットで考える必要があると思います。

小田急線沿線が変わりつつあるのを見ると、平塚駅周辺整備の方向性について、実際の人の流れを確認したり、若い人の声を聞いたりするなど、アイデア

	<p>をもっと出してもらったりする等の取り組みが必要であると思います。</p> <p>今後の課題として、皆さんと一緒に考えられればと思います。</p>
会長	<p>大きく2つのご意見をいただきました。色々な議論のポイントがあると思いま すし、人の流れという点では、ラスカ平塚に「駅の図書室」が開設されるといっ た新しい動きもあります。ぜひ議論が出来ればと思います。</p>
事務局	<p>今後、平塚市総合交通計画の改定に合わせて、様々な住民の皆様のご意 見をお伺いしたいと思いますし、議論の進め方につきましても委員の皆様とご 相談しながら考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。まちづくりの点では、大きな話では、倉見地区の件も あると思います。その他、何かありますか。</p>
委員	<p>その他ということで、弊社から2点の報告事項がございます。</p> <p>1点目は、令和7年(2025年)11月26日付けで、路線バスの運賃改定を申 請させていただきました。</p> <p>内容としては、横浜市内均一の運賃値上げと、令和5年(2023年)7月に実 施した運賃改定につきまして、現状の初乗り運賃210円から、国で認められて いる運賃の上限である初乗り運賃230円に引き上げる運賃改定を、令和8年 (2026年)4月4日を目途として、運輸局へ申請したものです。</p> <p>色々にご迷惑をおかけいたしますが、人員不足対策として待遇改善等を引き 続き実施する必要があるほか、安全対策への投資など、安定的に公共交通を維 持していくために実施させていただければと思います。</p> <p>運輸局様から認可がおりましたら、ホームページで順次ご案内をさせていた だきますので、ご承知のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>2点目は、大磯町が住民の足を確保するために補助を出しているバス路線に 関して、令和8年(2026年)8月末を目途に大磯町がタクシー補助券対応によ</p>

	<p>る代替交通への切り替えを検討しています。</p> <p>その中で1系統のみ平塚市民病院まで運行している路線がありまして、大磯駅から国道1号線経由で平塚市民病院に向かう路線が、朝1便だけ運行しています。こちらが大磯町の補助終了に伴いまして、廃止となります。</p> <p>朝1便だけ系統が廃止されるというところで、平塚市内に大きな影響があるわけではありませんが、平塚市にも神奈川県生活交通確保対策地域協議会から意見の照会があると思いますので、ご承知おきください。</p>
会長	<p>ありがとうございます。大磯町の補助路線は、平塚市民の利用者はほぼない状況でしょうか。</p>
委員	<p>ほぼいないと思います。大磯町のコミュニティバスのような運行です。</p>
会長	<p>他に何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは他にご意見が無いようであれば、進行を事務局にお返ししたいと思います。</p>
事務局	<p>長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和7年度第2回平塚市地域公共交通活性化協議会を閉会いたします。</p> <p>次回は令和8年8月頃に開催させていただきたいと考えております。開催日が決まりましたらご連絡を差し上げたいと思います。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>